

New Hope

～札幌ペンテコステ教会ニュース～

2012年3月

あの未曾有の大地震・大津波から、1年になります。未だ被災された多くの方々が不便な生活を強いられ、行方不明者も多数、被災地の復旧・復興も緒についたばかり、原子力発電所も炉心には手がつけられないままの状態です。

札幌ペンテコステ教会

主任牧師 矢巻 邦彦

札幌市中央区南14条西18丁目4-5

TEL&FAX 011-561-5072

<http://sapporopk.com/>

忘れた頃に

「天災は、忘れた頃にやってくる」と言われます。東北の太平洋岸には過去に幾度も大津波が襲い、伝承が刻まれてきました。けれども時間と共にその記憶が薄れ、徐々に油断が生じてきていたのでは、とも言われています。そして現在、未だ被害の爪痕が残る被災地を別にすると、多くの帰宅難民で溢れた首都圏においてさえ既に過去のこととして忘れられつつあるかのようです。

各地にもたらされた大きな災害とその惨状をまのあたりにして、多くの方々の心にいるいろいろな思いが行き巡ったことと思います。時の運と言うには余りに厳粛な、生と死を分けた一瞬の偶然。生き残ったことの幸いと苦悩。生きている意味、生きる目的、命とは一体何かなど、それまで日々の生活、仕事、人間関係などに紛れて考えなくなっていたようなことが、とりわけ意識されたのではないのでしょうか。

神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。

(旧約聖書 伝道の書 第3章11節)

みなさんの心に生じた様々な思い。それには、意味があります。ただ忘れてしまうのではなく、心に留めて、応答していくべきものです。

神がいるのなら

「神が居るのなら、なぜこのような酷いことが起こるのか」そう言って、神をのろい、「神などいるわけがない」と言うてはばからない人がいます。人間の思い・感情の中ではとうてい理解することのできない悲惨な災害を目の前にして、そう考えるのは仕方がないのかも知れませんが、でもこういう時こそ、「神」に目を向け、思いを向けていただきたいのです。



ある日「わたしは神だ」と言い始めたどこかのおじさんや、急に占いが当たるようになったお婆さん、山や木や石や、誰かが刻んで作ったモノ、そんな「神」のことではありません。

ただの概念や理想、知恵、宇宙の意思などでもありません。天地万物を造り、一人ひとりに人格を与え、世の初めからあなたを知っておられる方のことです。

わたしは神である、わたしのほかに神はない。わたしは神である、わたしと等しい者はない。
(旧約聖書 イザヤ書 第46章9節)

たとい大災害がなくとも、我が国では毎年 100 万人近い人達が人生を終えます。天寿を全うされる方だけではなく、自殺で、病気で、事件・事故で、この世を去って行きます。人は死後、どうなるのでしょうか。たった一度だけ、しかし確実にやってくる「死」に対して、備えができていますか。「天国」に行くために、準備は完了していますか。あなたは、確実にに行けますか。確信がありますか。

イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

(新約聖書 ヨハネによる福音書 第14章6節)

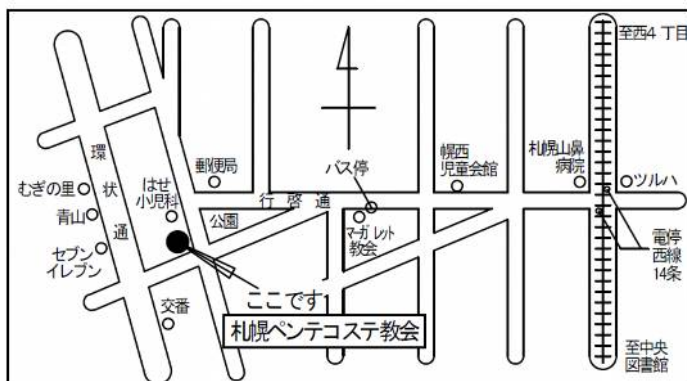
真実の道を見だし、この世を去るその日まで、確信と希望を持って生活していくことができますように。



教会の定期集会のご案内

- GP クラブ こどものためのプログラムです。(毎週日曜日 あさ9:00~10:00)
- 聖日礼拝 聖書を通じて神さまを知ります。(毎週日曜日 あさ10:30~12:00)
- 祈り会 神さまを賛美し祈り新たな力を受けます。(毎週木曜日 よる7:00~8:30)

どの集まりも参加自由、入場無料です。それぞれ、自由献金の時間がありますが、「感謝の気持ちをささげる」ためのもので、各自の自由です。



教会のホームページ

<http://sapporopk.com/>

NewHope のバックナンバーを読んだり、教会の様子を見たりすることができます。

西4丁目電停から市電にて
西線14条下車

JR 札幌駅札幌ターミナルから、
JR 北海道バス啓明線[51]にて
南14条西17丁目下車